

産学官連携リスクマネジメント推進事業

背景

＜科学技術イノベーション総合戦略2016＞
大学等が産学官連携を推進する上で生じるリスクマネジメントの強化等を図り、産学官連携活動の本格化を促進するとされており、企業からの投資額を大幅に増やしていくためには、大学等の体制整備が求められている。

＜産業界からの提言＞
「本格的な共同研究」実行に向けて研究者・学生等の共同研究への参画に向けた「リスクマネジメント」のルールを明確化を行う必要があるとしている。（日本経済団体連合会「産学官連携による共同研究の強化に向けて」より）

＜課題＞
現状としても、近年の産学連携の進展・深化により、大学の潜在的リスクが増大しており、産学官連携活動に係る大学のリスクマネジメントの強化による大学のインテグリティ(社会的信頼)の確立が不可欠である。

事業

- ・事業実施機関においてリスクマネジメントの仕組みを整備・運用し、望ましいモデルを確立。
- ・事業実施機関を中心に、実施機関ではない全国の大学等の産学官連携リスクマネジメントを推進するためのネットワークを形成。

利益相反マネジメント

【課題】 産学官連携を推進する場合、企業側の利害と、大学側の利害とが衝突するため、適切な利益相反マネジメントが必要（例えば、連携先企業の事業に有利なデータ収集による客観性欠如といった社会的疑念を抱かれないようにマネジメントすること）。

【取組方針】 実効的かつ効率的なマネジメントの仕組みや、マネジメントノウハウ共有の仕組み、組織としての利益相反への対応等について、モデル的な取組を促進していくことが必要。

【実施機関】
東京大学、東京医科歯科大学、東北大学



産学官連携 リスクマネジメント ネットワークの構築

技術流出防止マネジメント

【課題】 本格的な産学官連携を推進していく際、機密性の高い情報（例えば、企業の事業戦略情報等）を大学側が保持するケースも増加しうることから、営業秘密管理の強化が必要。また、軍事転用可能な技術等に関する適切な安全保障貿易管理は、大学等の社会的な信頼獲得のために必要。

【取組方針】 研究者が適切な技術流出防止マネジメントを実行できるよう環境を整備していくこと、マネジメント人材を配置すること等について、モデル的な取組を促進していくことが必要。

【実施機関】
名古屋大学、三重大学

